日田市埋蔵文化財調査報告書第 72 集

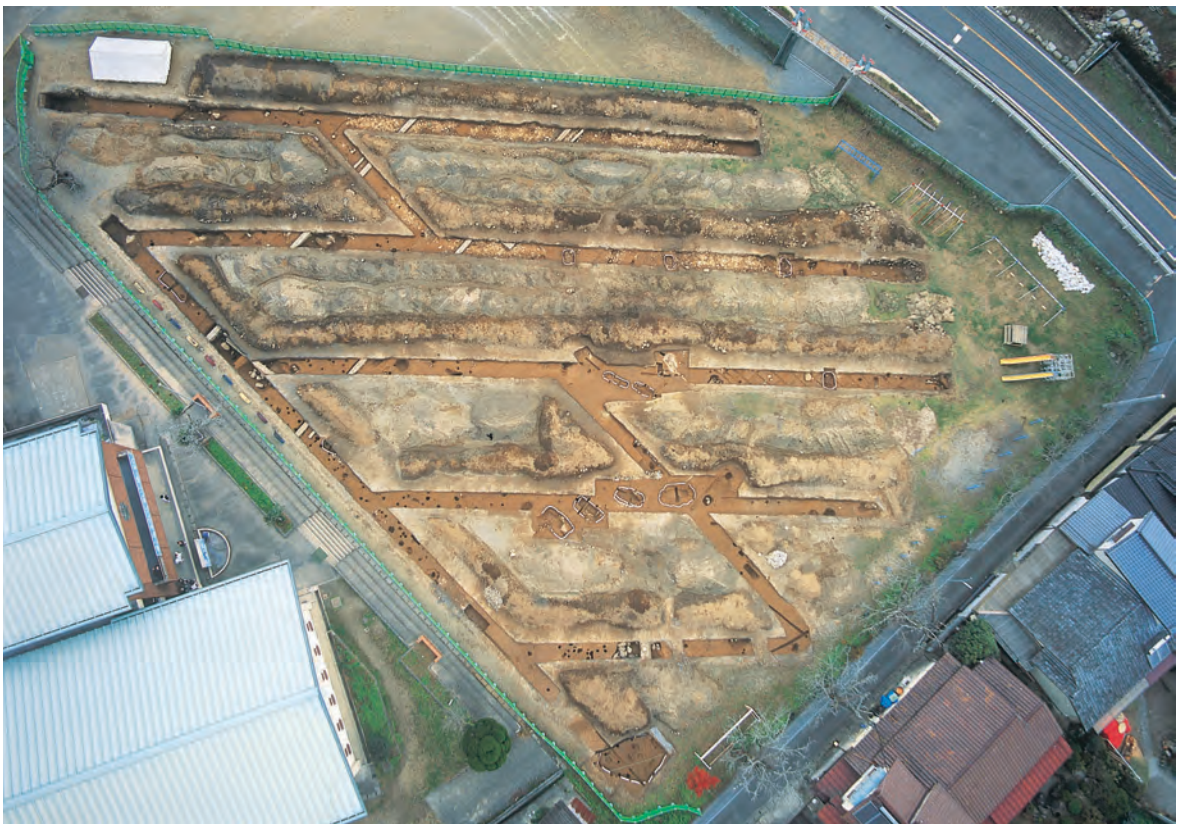
中川原遺跡

2006年

日田市教育委員会

巻頭写真図版

中川原遺跡遠景（南から）



調査区全景（真上から）

序　　文

平成17年3月22日の市町村合併により、新市域は2.4倍もの広大なものとなり、同時に掌握する文化財の数もずいぶん増加しました。

今回報告します中川原遺跡は、新市が旧町村域で行う初めての埋蔵文化財発掘調査となった遺跡です。合併以前の大山町では行政による正式な発掘調査が行われたことがなく、そういった面でも初の調査となり、地元の方々の関心が高く感じられました。

調査の対象となりました大山小学校は、以前工事中に校庭から石棺墓が発見され、さらに今回は弥生時代の住居跡・墓群と中世の墓群が出土するなど、古くから大山川流域の中心的な場所であったようです。

この調査の記録をまとめた本書がこれからの文化財保護や学術研究、そして教育現場での資料としてご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました関係者の皆様、調査中にさまざまな便宜を図っていただきました大山小学校の先生方、また酷暑の候から肌寒い時期まで一生懸命作業に従事いただきました作業員の皆様方に対し、心から厚く御礼を申し上げます。

平成18年3月31日

日田市教育委員会
教育長　諫 山 康 雄

写真1　大山小児童の遺跡見学風景

例　　言

1．本書は、大山小学校グラウンド改修事業に伴い日田市教育委員会が平成17年度に実施した中川原遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査にあたっては、市および学校関係者をはじめ、地元の方々のご協力を得た。記して感謝申し上げます。

3．調査現場での遺構実測・写真撮影は調査員が行い、一部雅企画有限会社に委託した成果品を使用した。

4．掲載遺物の実測および遺構・遺物の製図は行時が行い、一部雅企画有限会社に委託した成果品を使用した。また中川照美（日田市文化財保護課補助員）の協力を得た。

5．土壙墓については、今回の報告にあたって現場での遺構番号を下記のとおり変更している。（旧番号→新番号）
1号土壙墓→1号中世墓、2号土壙墓→2号中世墓、3号土壙墓→1号土壙墓、4号土壙墓→3号中世墓
5号土壙墓→2号土壙墓、6号土壙墓→4号中世墓、7号土壙墓→3号土壙墓

6．人骨の実測・取り上げ・分析は九州大学文学研究科基層構造講座に依頼し、田中良之教授、石川健助手、舟橋京子氏、および学生諸氏の手を煩わせ、玉稿を賜った。

7．掲載した遺物写真と人骨出土の墓の写真は、長谷川正美氏（雅企画有限会社）の撮影による。

8．本書に使用した図面中の方位は、全体図は真北、個別遺構は磁北で表示している。

9．写真図版に付している数字番号は挿図番号に対応する。

10．出土遺物および図面、写真類は、日田市埋蔵文化財センターにて保管している。

11．本書の執筆・編集は行時が担当した。

日田市の位置

写真２　調査風景

写真３　中川原遺跡現場公開風景

本　文　目　次

Ⅰ　調査に至る経過と組織 …… 1

Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 2

Ⅲ　調査の内容 …… 3
（1）　調査の概要 …… 3
（2）　遺構と遺物 …… 3
1）　竪穴住居 …… 3
2）　石棺墓 …… 5
3）　木棺墓 …… 6
4）　土壙墓 …… 6
5）　中世墓 …… 8

Ⅳ　分析 …… 11

Ⅴ　まとめ …… 19

挿　図　目　次

第１図　調査区位置図（1/5,000）…… 1
第２図　周辺の遺跡分布図（1/25,000）…… 2
第３図　遺構配置図（1/600）…… 3
第４図　１号竪穴住居および出土遺物実測図（1/80、1/4）…… 4
第５図　２・３号竪穴住居実測図（1/80）…… 4
第６図　１・２号石棺墓および出土遺物実測図（1/30、1/4）…… 5
第７図　３号石棺墓実測図（1/40）…… 6
第８図　１号木棺墓、１～３号土壙墓および出土遺物実測図（1/40、1/4）…… 7
第９図　１～４号中世墓および出土念珠実測図（1号中世墓①）（1/30、1/1）…… 9
第10図　出土念珠実測図２（1号中世墓②、2～4号中世墓）（1/1）……10
第11図　調査区出土縄文土器実測図（1/2）……19

表　目　次

第１表　出土土器観察表 …… 20
第２表　出土念珠観察表 …… 20

挿入写真目次

写真１　大山小児童の遺跡見学風景
写真２　調査風景
写真３　中川原遺跡現場公開風景
写真４　調査に参加いただいた皆さん

写真図版目次

巻頭写真図版　中川原遺跡遠景(南から)／調査区全景(真上から)
写真図版１　１～３号竪穴住居、１・２号石棺墓
写真図版２　３号石棺墓、１号木棺墓、石棺墓・木棺墓・土壙墓群(真上から)
　　１～３号土壙墓、１～４号中世墓(真上から)
写真図版３　１～４号中世墓
写真図版４　出土土器
写真図版５　出土念珠

写真４　調査に参加いただいた皆さん

Ⅰ　調査に至る経過と組織

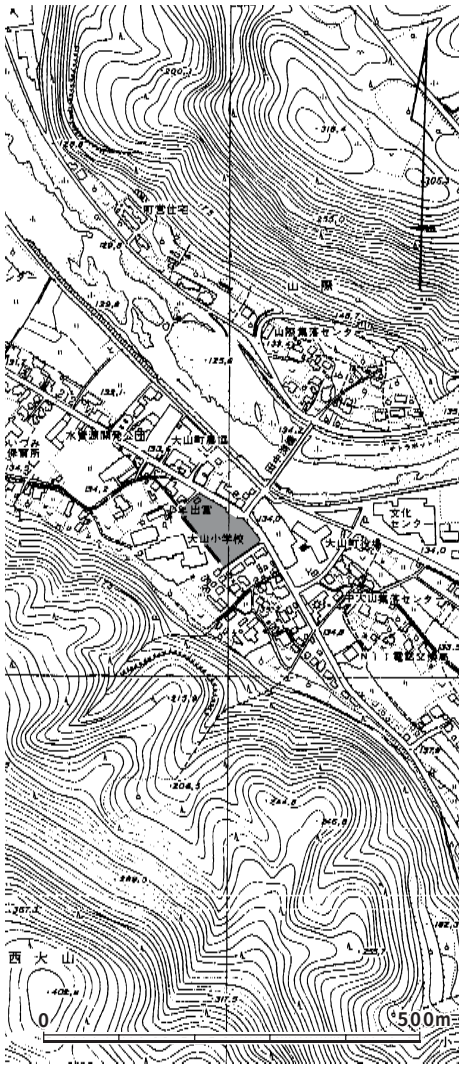
平成17年３月22日の市町村合併により日田市立となった大山小学校は明治７（1874）年創立で、開校130年あまりを誇る伝統校である。校舎の背後に山をひかえる立地からグラウンドの水はけが悪く、今回グラウンド内に排水設備の設置が計画された。平成16年秋に主管課（市教育委員会教育総務課）から埋蔵文化財の所在の有無について照会を受け、事業予定地が大山小学校庭遺跡（後に中川原遺跡と名称変更、遺跡範囲拡大）に該当することから、翌平成17年６月に試掘調査を行った。その結果、地表下10～20cmという浅い位置で竪穴住居やピット群が検出され、工事で遺構が破壊される恐れがあるため、発掘調査の実施に向けて協議を進めた。

調査の対象地は、工事内容が①グラウンド内に幅30～40cm、深さ40～50cmの溝を数条掘って排水管を埋設、②グラウンドの表土入れ替え　の２点であり、②については遺構への影響がないと考えられることから、①の管埋設部分について行うこととなり、長大なトレンチ調査となった。調査に関する日誌は下記のとおりである。

10月　　３日　表土除去・遺構検出・遺構掘り下げ
　　24日　石棺墓・土壙墓から人骨出土
11月８～９日　人骨実測・取り上げ
　　10日　大山小学校児童現場見学（見学者113名）
　　17日　空撮
　21～24日　人骨実測・取り上げ
　　27日　大山小学校実り祭りに伴い現場公開
　　（見学者104名）
12月　　２日　別府大学　後藤宗俊教授による現地指導
　　９日　現地での調査終了

なお、調査組織は、次のとおりである。

調 査 主 体　日田市教育委員会
調査責任者　諫山康雄（日田市教育委員会教育長）
調 査 統 括　後藤清　（同文化財保護課長）
調 査 事 務　高倉隆人（同課長補佐兼埋蔵文化財係長）
　　伊藤京子（同専門員）、中村邦宏（同主事補）
調 査 担 当　行時桂子（同主任）
調　査　員　土居和幸（同副主幹）、今田秀樹・若杉竜太・渡邉隆行（同主任）、矢羽田幸宏（同主事補）
調査作業員　秋吉佐由里、池田満夫、江藤キミ子、河津定雄、河津日美子、江田親、江田義武、五反田静子、後藤美知夫、財津利枝、財津由太、高村三郎、筒井英治、原口勝利、原田強、平原知義、森輝雄、矢野舞
整理作業員　中原琴枝



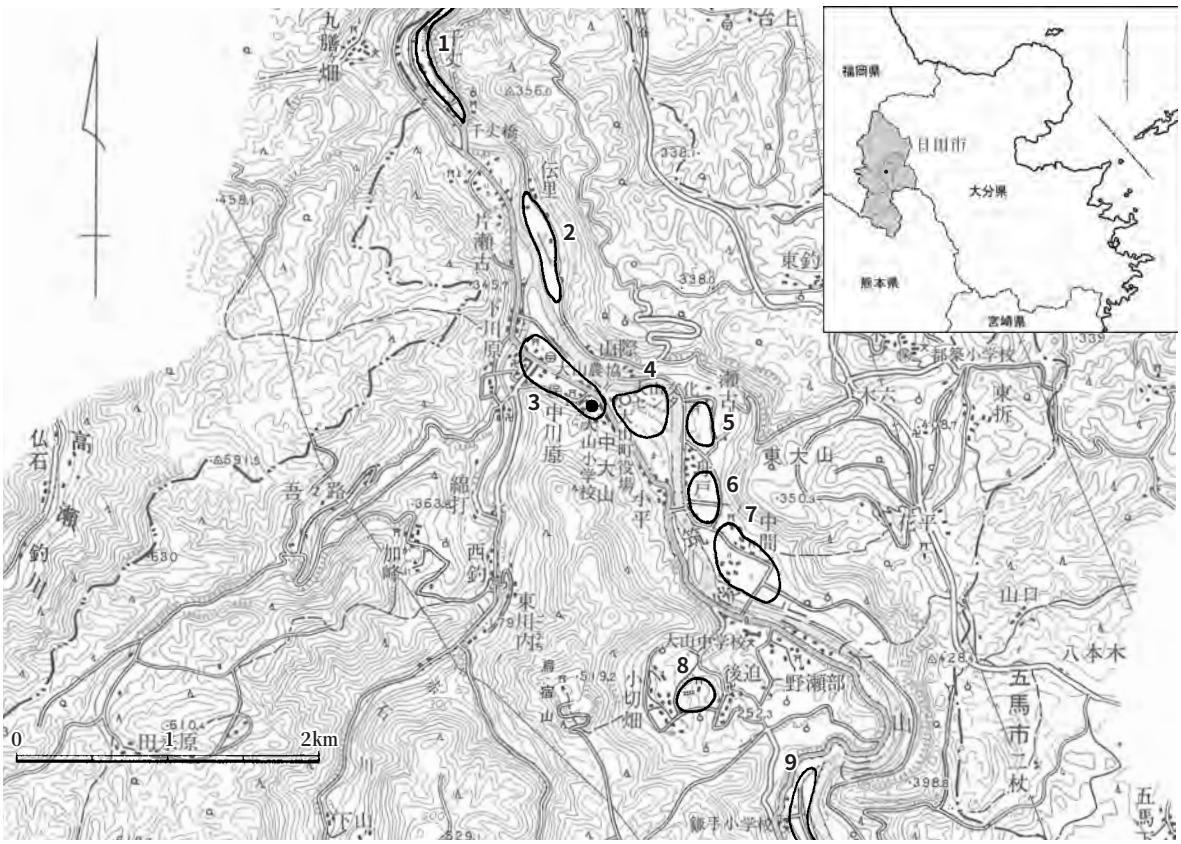
第１図　調査区位置図（1/5,000）

Ⅱ　遺跡の立地と環境

遺跡は日田盆地の南に広がる山間部、大山川西岸の沖積地に位置する。大山川は筑後川の上流部にあたり、津江山地や阿蘇外輪山を源として上津江・中津江・大山を通り、日田盆地東部で玖珠川と合流して三隈川（筑後川）となる。この大山川の支流上野川の源流域（前津江町曾家）には黒曜石の露頭が見られ、大山川の川原にも黒曜石の転石が散在している。この黒曜石は腰岳や姫島のものよりも質的に劣るとされていたが、良質のものも見られ、筑後川上流域を中心に石器の材料として使用されていたようである。また大山川沿いは谷幅が狭く、切り立った崖が多く見られるなかで、中川原遺跡の周辺は最も沖積地の広い場所である。

大山町内ではこれまで本格的な発掘調査が行われたことはないが、大山町と中津江村の境にある松原ダムの工事前には文化財調査団が結成され、その調査の結果、縄文時代後晩期の土器や石器が出土し、小型竪穴や集石遺構が見つかっている。また今回の調査区と国道を挟んで東側では、工場建設の際に須玖式土器を含む弥生時代中期の溝や包含層が見つかっており、環濠集落の可能性が指摘されている。さらにやや下流にある老松神社にはかつて大山津江地域で出土したといわれる銅鉾（県有形文化財）が奉納されている。このように古い時代からの生活の痕跡が点在し、特に弥生時代には北部九州と繋がりをもった集落の長が存在していたようであるが、これら以外の遺跡の所在ははっきりしていない。ただし、深い渓谷に分断されながら大山川沿いに分布する小段丘や丘陵斜面では縄文土器や弥生土器、石器、青磁、染付が採集されており、町内の広い範囲に遺跡が分布していることを窺わせる。

《参考文献》『大山町誌　虹を追って』大山町　1995



1 千丈遺跡　2 伝里遺跡　3 中川原遺跡　4 中大山遺跡　5 瀬古遺跡　6 舟戸遺跡　7 中間遺跡　8 鳥宿砦　9 鎌手遺跡

第２図　周辺の遺跡分布図（1/25,000）

Ⅲ　調査の内容

（1）調査の概要（第３図、巻頭写真図版）

調査は排水管埋設位置に沿って重機により表土除去および遺構検出を行った。グラウンドの北半分は昭和２年から昭和28年まで校舎が建っていたため、コンクリート基礎やゴミ穴と思われる撹乱坑が多数散在し、遺構はほとんど残存していなかったが、グラウンド中央から南側では、表土（真砂土）直下の黄褐色砂質土（地山）より竪穴住居３軒、石棺墓３基、木棺墓１基、土壙墓７基、が検出され、土壙墓については埋土の状況や主軸方向、プランの違い、副葬品から、弥生時代と考えられる土壙墓３基と、中世墓４基の２つに分けられることが判明した。以下、各遺構の説明をかえる。

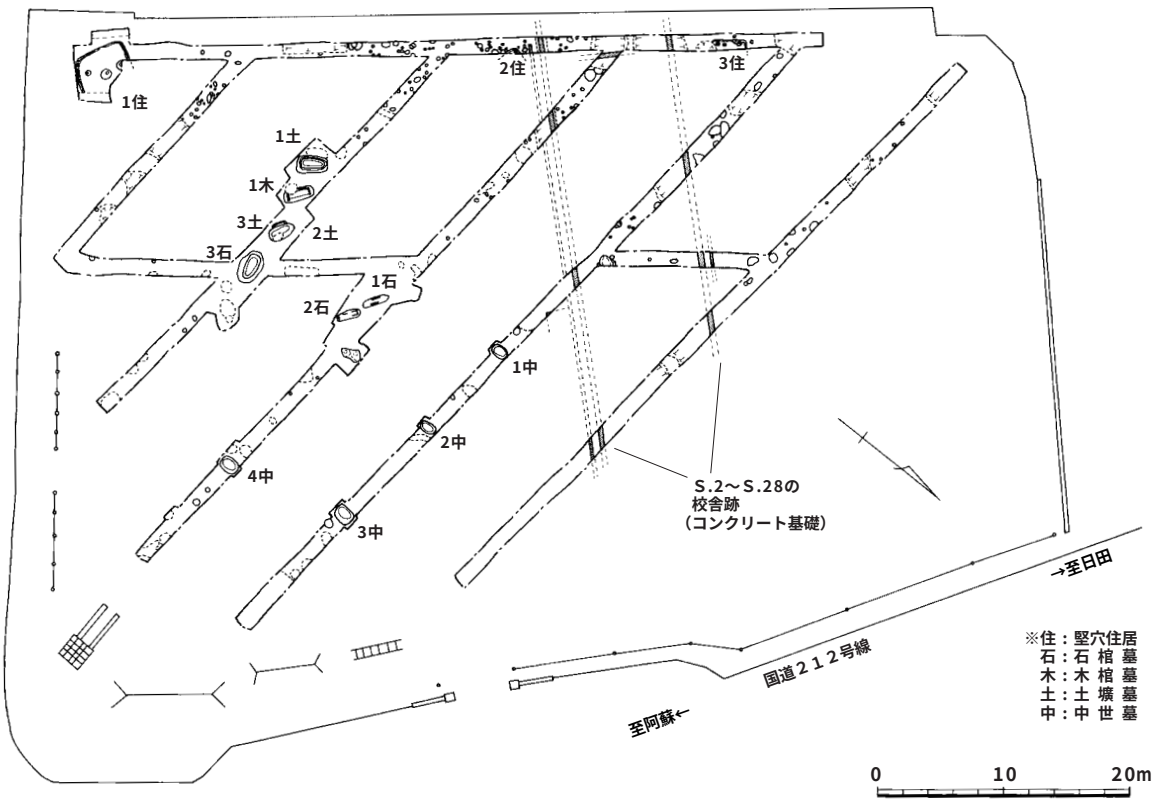
（2）遺構と遺物

1）竪穴住居

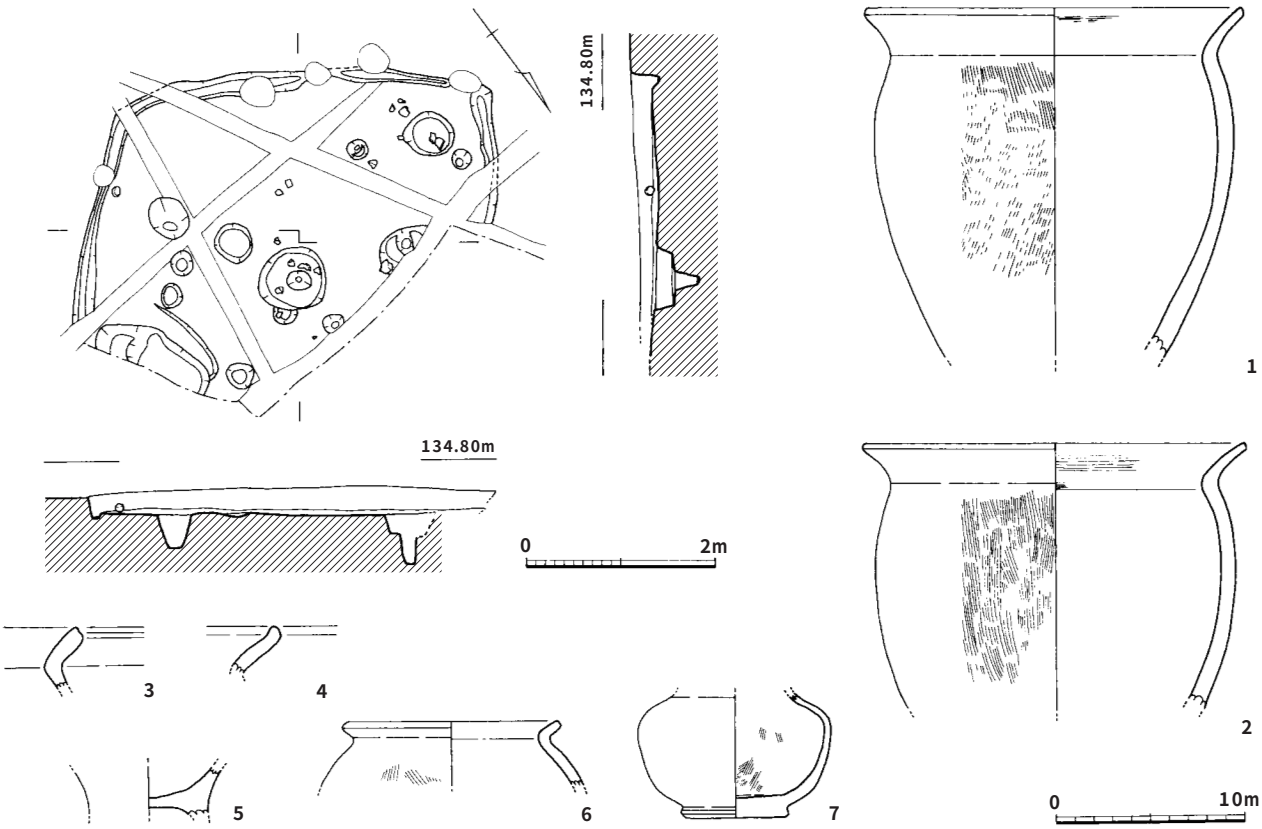
調査区南側、グラウンドの校舎寄りで3基の竪穴住居が検出された。

1号竪穴住居（第４図、図版１）

遺構内は複数の水道管埋設により破壊を受けているが、北隅は調査区外に広がり、検出面から推定して、規模は一辺約4.0mの方形と考えられる。床面までの深さは約30cm、壁面沿いには周溝がめぐらされている。床面中央やや東側に炉跡と考えられるピットと、これを挟んで南北に主柱穴が確認された。なお炉跡の埋土には若干炭が含まれるものの焼土の痕跡は薄く、使用期間が短かったためか、砂質の地山のためかは不明である。この炉跡や主柱穴、土坑からは、土器がまとまって出土している。



第３図　遺構配置図（1/600）



第４図　1号竪穴住居および出土遺物実測図（1/80、1/4）

出土土器（第４図、図版４）

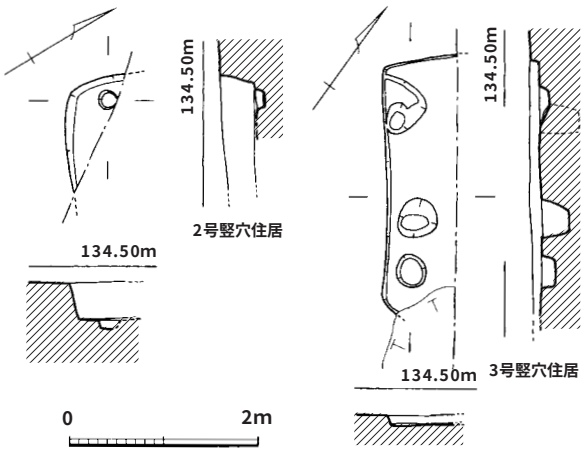
1～4は甕である。1は西側主柱穴、2は炉跡から出土したもので、同一個体の可能性がある。4は跳ね上げ状の口縁を呈する。5は脚付甕の底部である。6は小壺である。7は手捏ね土器で、口縁を欠くものの壺状の形態を呈すると考えられる。底部には円形の粘土板を貼り付けている。

２号竪穴住居（第５図、図版１）

西隅がわずかに検出され、検出面での規模は約0.6m×1.0m、深さは約40cmを測る。ピットが１つ検出されているが、深さと壁面からの距離を考えると、主柱穴にはなりえない。埋土からは土器片が数点出土しているが、図示できるものはなかった。

３号竪穴住居（第５図、図版１）

住居の西側1/3程度が検出された。南側の一部は後世の撹乱坑により破壊されている。検出面での規模は約2.6m×0.8m＋α、深さは約10cmを測る。ピットが複数検出されているが、その位置から主柱穴ではないと思われる。埋土からは土器片が数点出土しているが、図示できるものはなかった。



第５図　２・３号竪穴住居実測図（1/80）

2）石棺墓

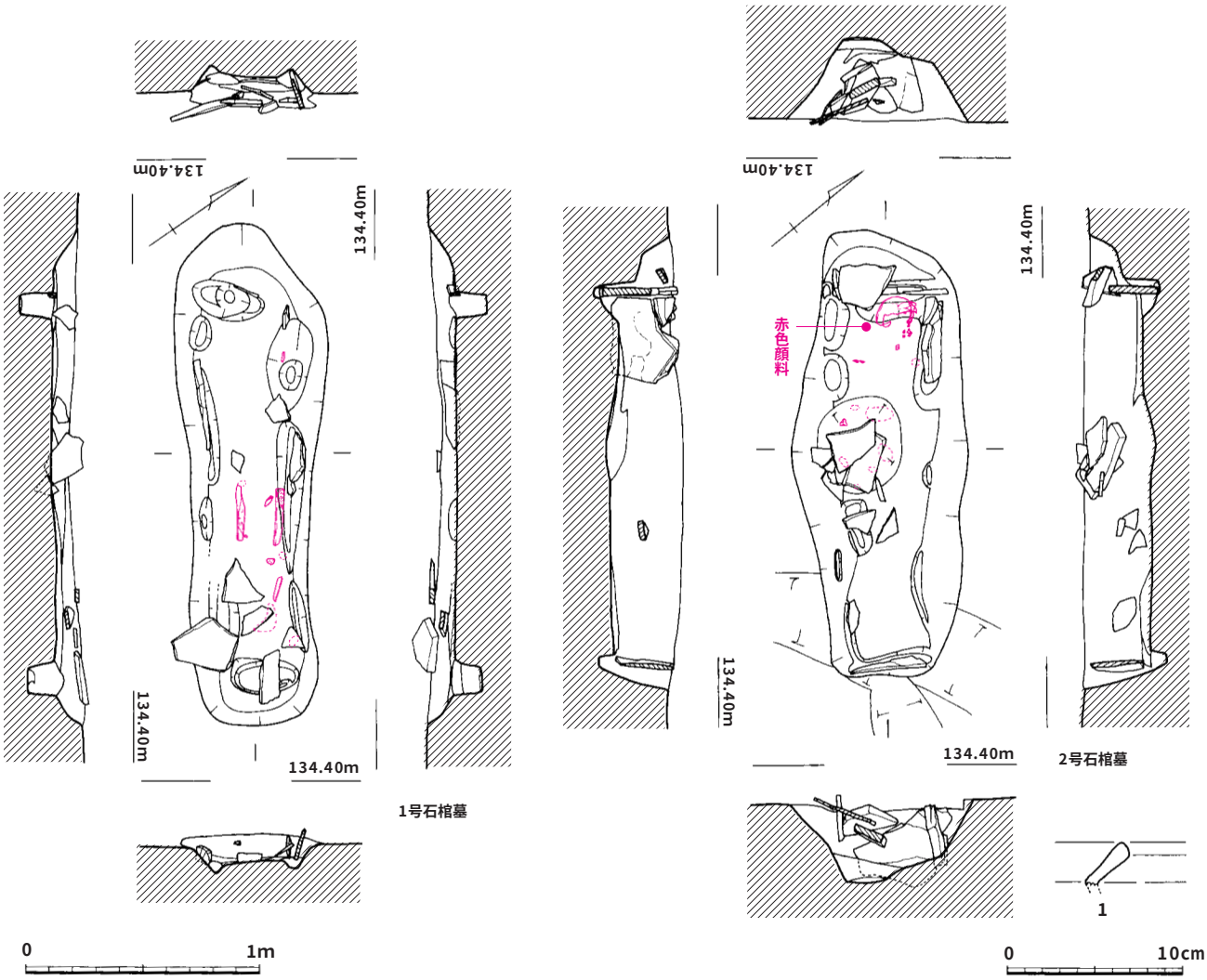
主軸をほぼ同じくする2基の箱式石棺墓が縦列して検出された。いずれも著しく破壊を受けており、残存状態は不良である。

１号石棺墓（第６図、図版１）

調査区中央からやや南寄りで検出された。検出面での墓坑の規模は長軸約2.15m、短軸約0.55mを測り、底面までの深さは約10cmとかなり浅い。墓の主軸方向はN－55°－Wをとる。蓋石はほとんど残存せず、側壁も両壁中央部以外は全て抜取られるか浮いた状態であった。棺材は安山岩である。棺内から人骨１体が検出されたものの遺物の出土はなく、赤色顔料等も使われていない。

２号石棺墓（第６図、図版１）

１号石棺墓の東に隣接し、東端は後世の暗渠により破壊を受けている。検出面での墓坑の規模は長軸約1.9m、短軸約0.75mを測り、底面までの深さは約30cmと、１号石棺墓に比べて深い。墓の主軸方向はN－51°－Wをとる。蓋石状に検出された棺材が数点見られるものの、埋土が後世の撹乱を受けており、現位置を保つものではない。棺材は安山岩である。棺内から人骨１体が検出され、弥生土器が１点出土しているが、後世の撹乱によるものである。人骨の頭蓋骨付近には少量ながら赤色顔料が使われていた。



第６図　１・２号石棺墓および出土遺物実測図（1/30、1/4）

３号石棺墓（第７図、図版２）

調査区南側、２・３号土壙墓の東で検出された。表土除去時はコンクリート塊が詰まっていたため造成時の撹乱としていたが、コンクリートを取り除くと下から２段掘りの墓坑状の土坑が検出された。残存する墓坑の規模は長軸約2.0m、短軸約0.8mを測り、上段からの深さは約15cmである。墓の主軸方向はN－85°－Wをとる。以前の校庭工事時に出土した石棺墓の痕跡の可能性がある。

３）木棺墓（第８図、図版２）

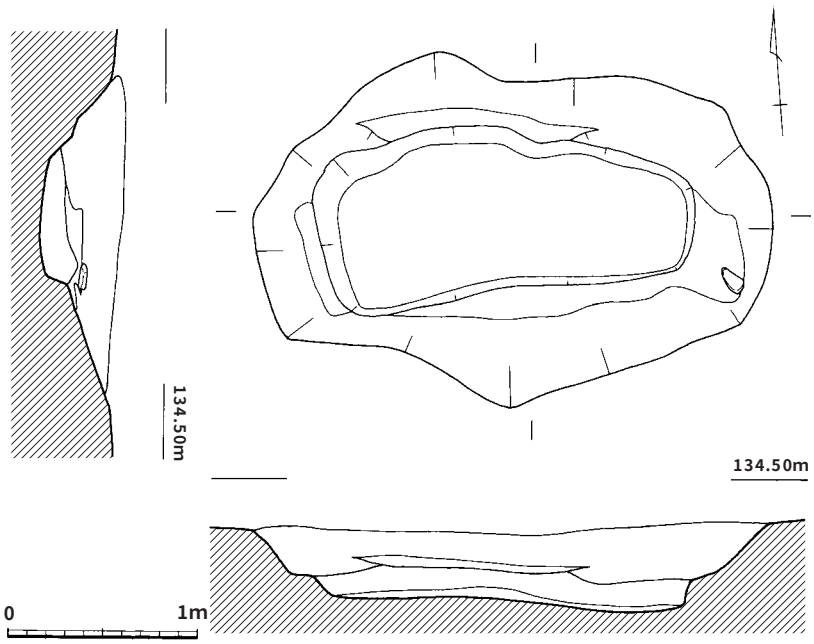
調査区南側、１号土壙墓と２・３号土壙墓の間で検出された。検出面での墓坑の規模は長軸約2.4m、短軸約1.25mを測り、底面までの深さは約35cmである。墓の主軸方向はN－41°－Wをとる。墓坑は南側壁のみ２段につくられ、両小口には板石（安山岩）が使用されているが、特に南側壁には棺材の掘り方が見られることから、木板が嵌め込まれていたと思われる。棺内からは土器片が少数出土しているが、図示不能である。

４）土壙墓

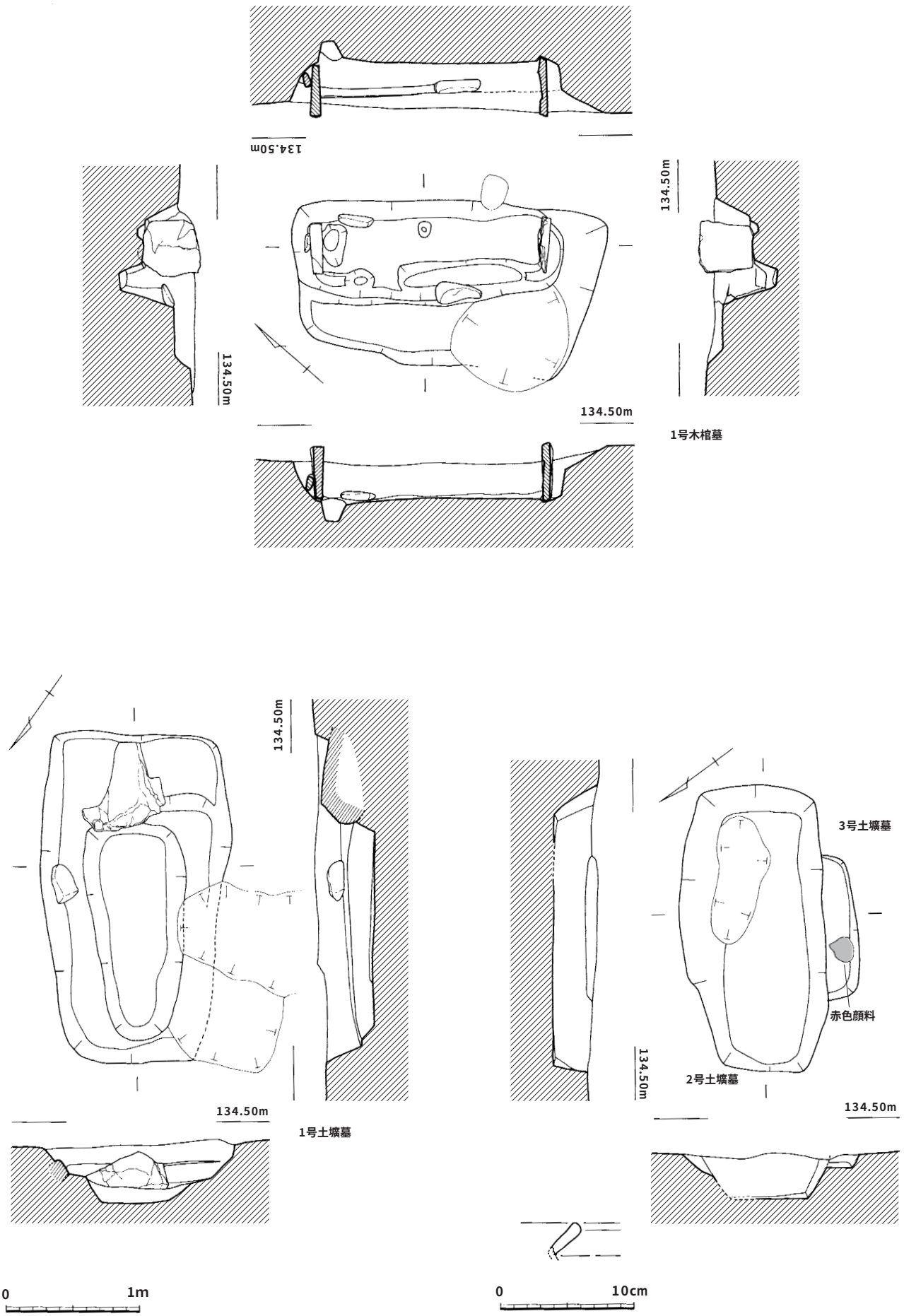
調査区の南から東側にかけて３基検出された。埋土はやや薄い暗褐色砂質土である。

１号土壙墓（第８図、図版２）

調査区南側、１号木棺墓の西隣で検出された。検出面での墓坑の規模は長軸約2.5m、短軸約1.4mを測り、底面までの深さは約45cmである。墓の主軸方向はN－35°－Wをとる。西側壁の一部は後世の撹乱を受けているが、全体に２段掘りになっており、南側小口は大石（自然石）に突き当たる。棺の幅から頭位は南と思われる。棺内からの遺物の出土はなかった。



第７図　３号石棺墓実測図（1/40）



第８図　１号木棺墓、１～３号土壙墓および出土遺物実測図（1/40、1/4）

２・３号土壙墓（第８図、図版２）

１号木棺墓の東隣で検出された。２号土壙墓の検出面での規模は長軸約2.2m、短軸約1.1mを測り、底面までの深さは約35cmである。墓の主軸方向はN－54°－Wをとる。北側壁と床面の一部は撹乱を受けている。頭位方向は不明である。棺内から甕の口縁部片が１点出土している。

３号土壙墓は２号土壙墓に北半を切られており、長軸約1.1m、底面までの深さは約10cmを測る。２号土壙墓と比較してかなり小さく浅いため、２号土壙墓の段掘り部分である可能性も考えられたが、床面の一部には赤色顔料が見られ、これが２号土壙墓まで広がらないことから、２号土壙墓とは別のものであると判断した。頭位方向は不明である。棺内からの遺物の出土はなかった。

5）中世墓

調査区中央から東寄りで4基確認された。埋土は１～３号中世墓が明確な黒褐色砂質土、４号中世墓は灰褐色砂質土で、それぞれが８～９mの間隔をもって存在する。

１号中世墓（第９・10図、図版３・５）

調査区中央部で検出された。検出面での規模は長軸約1.25m、短軸約0.95mの隅丸長方形を呈し、床面までの深さ約25cm、主軸方向はN－６°－Eを測る。床面より人骨１体が検出され、ガラス製念珠が83点出土した。人骨の残存状態は不良であるが、頭位を北、顔面を西に向けた側臥屈葬である。ガラス製念珠は手の付近で出土し、直径0.45mm～0.55mmで、全て白色ガラス製である。

２号中世墓（第９・10図、図版３・５）

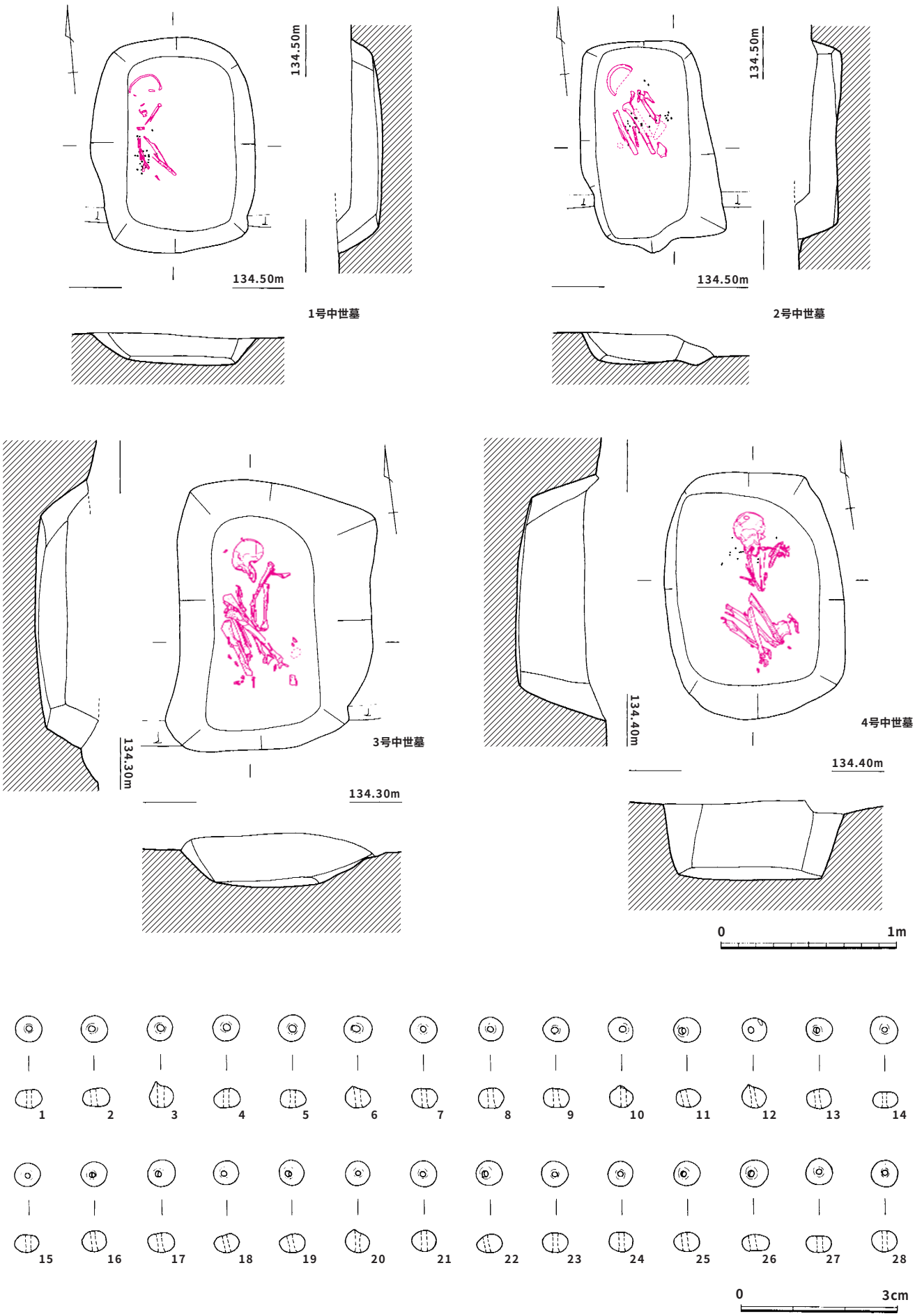
１号中世墓の８m西で検出された。検出面での規模は長軸約1.2m、短軸約0.8mのやや崩れた隅丸長方形を呈し、床面までの深さ約25cm、主軸方向はN－６°－Eを測る。床面より人骨１体が検出され、ガラス製念珠が38点出土した。人骨の残存状態は不良であるが、頭位を北、顔面を西に向けた側臥屈葬である。ガラス製念珠は手から腰の広範囲にわたって出土し、直径0.4mm～0.7mmで、全て白色ガラス製である。

３号中世墓（第９・10図、図版３・５）

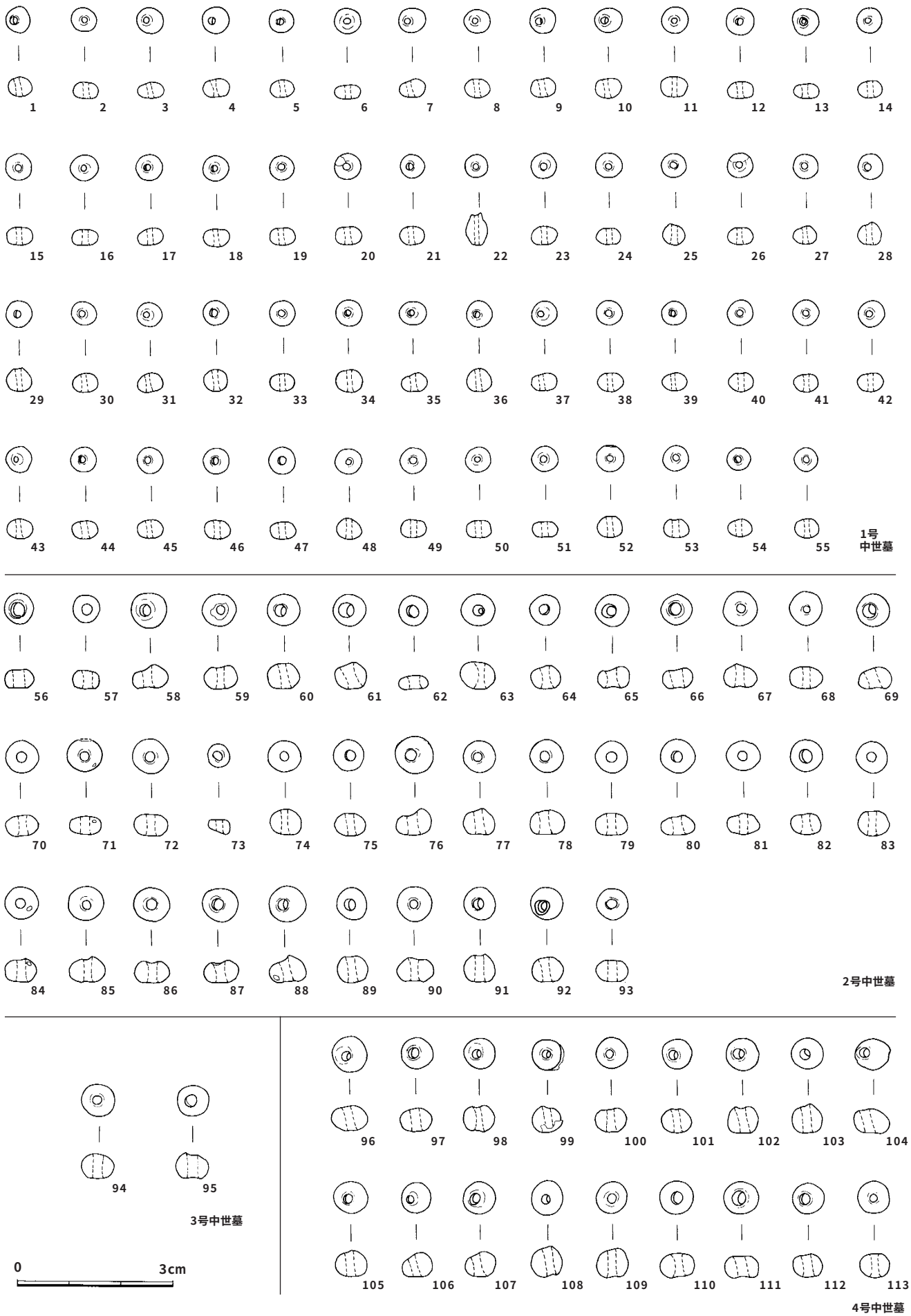
２号中世墓の９m西で検出された。検出面での規模は長軸約1.55m、短軸約1.1mの崩れた隅丸長方形を呈し、床面までの深さ約30cm、主軸方向はN－８°－Eを測る。床面より人骨１体が検出され、ガラス製念珠が２点出土した。また埋土より鉄釘（整理中に紛失）が1点出土しており、木棺墓であったことが想像される。人骨の残存状態はやや不良であるが、頭位を北、顔面を西に向けた側臥屈葬である。ガラス製念珠は埋土の精査で出土し、直径0.6㎜～0.65㎜で、ともに白色ガラス製である。

４号中世墓（第９・10図、図版３・５）

３号中世墓の９m南東で検出された。検出面での規模は長軸約1.4m、短軸約1.0mの隅丸長方形を呈し、床面までの深さ約40cm、主軸方向はN－８°－Eを測る。埋土には暗褐色粘質土の方形と考えられるラインが見られ、木棺の痕跡と思われる。床面より人骨１体が検出され、ガラス製念珠が18点出土した。人骨の残存状態はやや不良であるが、頭位を北、顔面を西に向けた側臥屈葬である。ガラス製念珠は手から頭部付近で出土し、直径0.6㎜～0.7㎜で、全て白色ガラス製である。



第９図　１～４号中世墓および出土念珠実測図１（１号中世墓①）（1/30、1/1）



第10図　出土念珠実測図２（１号中世墓②、２～４号中世墓）（1/1）

Ⅵ　分析

中川原遺跡出土人骨について

城門義廣[*1]・石田智子[*1]・山根謙二[*1]・鈴木克[*1]・邱鴻霖[*1]・舟橋京子[*2]・田中良之[*3]

＊1　九州大学大学院比較社会文化学府基層構造講座

＊2　九州大学大学院人文科学研究院

＊3　九州大学大学院比較社会文化研究院基層構造講座

1、はじめに

大分県日田市中川原遺跡の弥生時代石棺墓２基と中世土壙墓４基から人骨が出土し、調査を担当した日田市教育委員会より九州大学大学院比較社会文化研究院基層構造講座へと人骨調査の依頼があった。そのため、石川健、舟橋が現地へ赴き、人骨の観察・実測及び取り上げをおこなった。人骨はその後九州大学へと搬送され、本講座において整理・分析をおこなった。以下にその結果を報告する。

なお、人骨は現在、九州大学大学院比較社会文化研究院考古人類資料室に保管されている。

2、出土状況

1号石棺墓人骨

石棺内東側から左右大腿骨が石棺と長軸をほぼ揃えた状態で出土している。さらに大腿骨の東側から、骨片が多数分散した状態で出土している。また、石棺内西側からも長管骨片が出土している。これらのことから、本人骨は頭位を西にした伸展葬であった可能性が考えられる。

2号石棺墓人骨

石棺内北西側から、頭蓋骨が顔面側を北東に、頭頂部を西側にした状態で出土している。この頭蓋骨の南東側約１mの範囲で、床面直上から10㎝程の厚さで、骨片および歯牙が散乱した状態で出土している。歯牙は、全て石棺中央付近から散乱した状態で出土している。これらのことから、本人骨は埋葬時の位置関係を保持しておらず，埋葬後に移動もしくは攪乱を受けた可能性が考えられる。

1号中世墓人骨

方形の墓壙のやや西側から頭蓋骨・上肢骨・下肢骨が出土している。頭位は北向きであり、頭部位置の中央部付近で右側頭骨の外耳孔が内部を上にした状態で出土している。上・下顎骨の一部が歯列を保持した状態で出土しておりオトガイ方向が西を向いていることから、頭部右側を下にして顔面を西側に向けていると考えられる。頭蓋骨の南側、上顎骨・下顎骨の東側から上腕骨が出土している。上腕骨は、近位端は北東、遠位端は南西を向いている。上腕骨の南側から、右大腿骨を下にして近位側で重なり長軸を揃えた状態で左右大腿骨が出土し、近位端を南東、遠位端を北西に向けている。大腿骨の西側から長管骨が４～５本出土している。一部の長管骨は右大腿骨の遠位端と接して約45 ℃で交差する位置にあることから脛骨と推定され、右半身を下にして膝を強く屈曲した状態であると考えられる。また、これらの保存不良の長管骨は、上腕骨遠位側の延長線上にあり、上腕骨とほぼ長軸が揃っている骨も見られることから、長管骨の中には上腕骨に対応する前腕骨が含まれていると推定され、腕を膝の方向に伸ばした状態で埋葬されていたと推定される。これらのことから、本人骨は頭位を北に向けた側臥屈葬であったと考えられる。

また、本人骨には念珠の副葬が見られる。これらは、長管骨の範囲で多数まとまって出土している。

したがって、埋葬時に念珠を手に装着していた、もしくは手元付近に副葬されていたと考えられる。

2号中世墓人骨

方形の墓壙内のやや北側から頭蓋骨・上肢骨・下肢骨が出土している。頭位は北向きであり、顔面は西側を向いている。頭蓋の南側から、左上腕骨が近位を頭側にした状態で出土している。左上腕骨近位の東側から左肩甲骨が出土しており、関節した状態であったと考えられる。左上腕骨近位の北西側からは左鎖骨も出土しており、ほぼ原位置を保っているものと考えられる。また、左鎖骨のやや北側から下顎と考えられる骨が出土している。左上腕骨の南側からは左肋骨が出土し、その下位の位置からは左前腕が出土している。下肢骨は、頭蓋の南側左上腕骨の西側から、近位を頭側にした状態で左脛骨が出土しており、その下位の位置からは左大腿骨が遠位を頭側にした状態で出土している。左大腿骨近位に近接して、左寛骨が出土している。また、左脛骨の西側からは、右脛骨および右大腿骨が長軸を南北方向にして出土しており、右脛骨の下位の位置からは前腕骨、右大腿骨の下位の位置からは右上腕骨が出土している。右上腕骨遠位は前腕骨と関節する位置であると考えられる。これらのことから、本人骨は頭位を北にとり、足を西側に倒した側臥屈葬であったと考えられる。

また、本人骨には念珠の副葬が見られる。これらは、右上腕および右脛骨、頭蓋骨付近、左寛骨北側の肋骨付近から出土している。念珠が広範囲から出土していることから、埋葬時におかれていた位置は不明であるが、１号・４号中世墓の念珠の出土状況を考えると、上肢付近におかれていた念珠が、棺の腐朽に伴った土砂の流入により、動いた可能性が考えられる。

3号中世墓人骨

方形の土壙墓のほぼ中央から頭蓋骨・上肢骨・下肢骨が出土している。頭位は北西向きであり、顔面は南西方向を向いている。頭蓋の南側から、左右ともに前腕骨の遠位が頭部方向（北西）を向き、上肢を強屈した状態で出土している。頭の下や北側から指骨が出土すること、右前腕の遠位側が顔面付近に位置することから、右の掌が頭の下に位置していたと考えられる。下肢骨は、右大腿骨と脛骨が関節状態である。また、左右ともに大腿骨の遠位と脛骨・腓骨の近位が頭側を向き、下肢を強屈した状態である。これらのことから、本人骨は頭位を北西にとった屈葬であったと考えられる。さらに、右上腕骨、右大腿骨の上部に重なって左上腕骨、左大腿骨が出土することから側臥屈葬であったと考えられる。

4号中世墓人骨

方形の土壙墓のほぼ中央から頭蓋骨・上肢骨・下肢骨が出土している。頭位は北向きであり、右側面を下にして顔面は西を向いている。下顎は頭蓋と関節した状態で、オトガイは南西を向いている。躯幹骨は、下顎骨の下から右第1肋骨が出土している。上肢骨は、左肩甲骨、左右上腕骨、左右前腕骨の一部が出土している。左肩甲骨片はオトガイの約15cm東から出土している。左上腕骨は近位を左肩甲骨付近向け、遠位を南西方向に向けて出土している。左前腕骨は左上腕骨の遠位側から10cm西の位置から出土しており、左上腕骨と約90 °長軸方向を変え、遠位は北西方向を向いている。右上腕骨は近位が下顎骨と左肩甲骨の中間に位置し、遠位は南方向を向いている。骨体部の一部は左上腕骨の下から出土している。右前腕骨は近位が右上腕骨の遠位に近接しており、遠位は北方向を向いている。下肢骨は、左右寛骨、左右大腿骨、左右脛骨、右腓骨、左右足根骨の一部が出土している。両寛骨は左肩甲骨から約50cm南側から出土している。左大腿骨は近位が寛骨に近接し、遠位を北西方向に向けた状態である。左

脛骨は近位側が左大腿骨の遠位付近に位置し、遠位をほぼ南方向に向けている。左距骨は左頸骨の遠位端付近にあり解剖学的正位置を保っている。右大腿骨は、近位が左大腿骨の近位直下にあり遠位を北西方向に向けている。右脛骨と右腓骨は近位が右大腿骨遠位に近接しており、遠位を南東方向に向けている。右足根骨は左頸骨の遠位端付近にあり、左足根骨とほぼ同位置から出土している。左右の下肢骨は股関節と膝間接を屈曲させた状態で出土している。本人骨は、頭蓋の右側面が下であること、左右上腕骨が左上腕骨を上にして一部重なっていること、左右大腿骨の近位も左大腿骨を上にして重なっていることから右側臥屈葬と考えられる。

また、本人骨には念珠の副葬が見られる。これらは、右前腕遠位付近と右上腕近位付近から出土している。したがって、埋葬時に念珠を右手に装着していた、もしくは右手付近に副葬されたものと考えられる。

3、人骨所見

1号石棺墓人骨

【保存状態】

保存状態は不良である。頭蓋骨は、部位同定が困難な細片が遺存しているのみである。

下肢骨は、左右大腿骨骨体部片が遺存している。

【年齢・性別】

年齢及び性別は、推定可能な部位が遺存していないため不明である。

2号石棺墓人骨

【保存状態】

保存状態は不良である。頭蓋骨は、側頭骨の前半分と頭蓋底付近を除いた頭蓋冠が遺存している。外後頭隆起はあまり発達しておらず矢状縫合は外板が閉じかけている。歯牙は、上顎左犬歯・第1小臼歯・第1大臼歯が遺存しており、この他にもエナメル質片が遺存している。歯牙咬耗度は栃原(栃原1957)の２°a～２°bである。

このほか、小片のため部位同定が困難な骨片が多数遺存している。

【年齢・性別】

年齢は、矢状縫合の閉鎖状況と歯牙の咬耗度から熟年と推定される。性別は、外後頭隆起があまり発達していないことから女性の可能性が考えられる。

1号中世墓人骨

【保存状態】

保存状態は不良である。頭蓋骨は、右頭頂骨の後頭縁付近、後頭骨右側の後頭平面部、右側頭骨の外耳孔・外耳道付近の破片が遺存している。また、左上顎骨および下顎骨の一部が遺存する。

残存歯牙の歯式は以下の通りである。

	●	●	●			●	●	●			●				
／	M^2	M^1	P^2	／	／	I^2	I^1	I^1	／	／	P^1	P^2	／	／	／
M_3	M_2	M_1	P_2	P_1	／	I_2	I_1	I_1	I_2	／	P_1	P_2	M_1	M_2	／
●	●	●				●	●	●	●		●	●	●	●	

また、右上顎第1小臼歯の一部が遺存する。歯牙咬耗度は、栃原（栃原1957）の2°a～2°bである。その他、部位不明の歯冠および歯根の破片が多数認められる。

上肢骨は、上腕骨の破片が遺存しており、左右は不明である。

下肢骨は、大腿骨の近位側大腿骨体の一部が遺存しており、左右は不明である。

ほかに、部位不明骨片が認められるが、出土状況から前腕骨・脛骨の破片であると推測される。

【年齢・性別】

年齢は、歯牙咬耗度から成年～熟年であると推定される。性別は、推定可能部位が残存していないため不明である。

2号中世墓人骨

【保存状態】

保存状態は不良である。頭蓋骨は、左右側頭骨・前頭骨が遺存している。右側頭骨は下顎窩、鱗部、錐体が遺存している。左側頭骨は錐体が遺存している。前頭骨は眼窩上部の前頭鼻骨縫合付近が遺存している。頭蓋主縫合の癒合状態は、保存状態不良のため不明である。ほかに、小片のため部位同定が不可能な側頭骨・前頭骨片が遺存している。

躯幹骨は、左肋骨・左鎖骨が遺存している。左鎖骨は骨体部が遺存し、左肋骨は小片のため部位同定は不可能である。

上肢骨は、左肩甲骨、左右上腕骨、左右前腕骨が遺存している。左肩甲骨は関節窩付近が遺存している。左上腕骨は近位骨端部及び骨体部片が遺存している。ほかに小片のため部位同定が不可能な右上腕骨・左右前腕骨が遺存している。

下肢骨は、左右大腿骨、左右脛骨、左寛骨が遺存している。左大腿骨は遠位骨端部および骨体部片が遺存している。右大腿骨および左右脛骨は骨体部片が遺存している。左寛骨は腸骨翼が遺存している。大坐骨切痕角は大きい。

【年齢・性別】

年齢は、推定可能な部位が遺存していないものの、全体的なサイズが大きいことから成人と推定される。性別は、大腿骨粗線、脛骨ヒラメ筋線があまり発達しておらず、大坐骨切痕角が大きいことから、女性と判定される。

3号中世墓人骨

【保存状態】

保存状態は比較的良好である。頭蓋骨は、右頬骨・左右頬骨弓・左乳様突起を除いて、前頭骨、左右頭頂骨、左右側頭骨、後頭骨、鼻骨、左右上顎骨、左頬骨が遺存している。しかし、土圧により著しく歪んでいるため計測は不可能である。冠状縫合・ラムダ縫合の外板は閉じかけており、ラムダ縫合の内板はほぼ閉鎖している。眼窩上隆起・外後頭隆起・乳様突起は発達している。下顎骨は、オトガイ隆起・左関節突起・右下顎角・左右筋突起付近を除いて遺存している。

残存歯牙の歯式は以下の通りである。

M^2	M^1	P^2	P^1	C	×	I^1	／	$\overset{c}{I}{}^2$	○	×	×	／	／
×	×	×	×	C	／	／	I_1	×	×	P_1	P_2	×	×

この他にも、歯種不明な円錐歯も1本出土している。歯牙咬耗度は栃原（栃原1975）の３°である。

上肢骨は、左鎖骨骨体中央部、右上腕骨骨体部、近位端を除く左上腕骨、右橈骨骨体部、左橈骨骨体部、遠位端を除く右尺骨、遠位端を除く左尺骨が遺存している。また、右肩甲骨片、右中手骨片、右基節骨片、右中節骨片、右舟状骨片も遺存している。

下肢骨は、左右寛骨の腸骨翼付近が遺存している。また、骨頭・大転子を除く右大腿骨、右脛骨、左脛骨、右腓骨骨体部、左腓骨骨体部が遺存している。さらに、右距骨片、右踵骨片、左距骨片、左舟状骨片、左中間楔状骨片も認められる。大腿骨の粗線は発達し、脛骨のヒラメ筋線も発達している。

【年齢・性別】

年齢は、歯牙咬耗度や頭蓋主縫合の癒合程度、また下顎臼歯部の生前喪失から、老年と推定される。性別は、眼窩上隆起・外後頭隆起・乳様突起が発達していること、大腿骨粗線と脛骨ヒラメ筋線が発達していることから、男性と判定される。

【特記事項】

上顎左側切歯と歯種不明な円錐歯には虫歯が認められる。

4号中世墓人骨

【保存状態】

保存状態はあまり良くない。頭蓋骨は頭蓋底の一部を除きほぼ完存しているが、土圧により著しく歪んでいるため計測は不可能である。また、表面の風化も著しく、縫合の判別も困難である。

残存歯牙の歯式は以下のとおりである。

()	M^2	M^1	P^2	P^1	C	I^2	I^1	I^1	I^2	C	P^1	P^2	M^1	M^2	M^3
M_3	M_2	M_1	P_2	P_1	C	I_2	I_1	I_1	I_2	C	P_1	P_2	M_1	M_2	M_3

歯牙咬耗度は栃原（栃原1975）の3°である。

躯幹骨は、右第1肋骨が遺存している。

上肢骨は、左肩甲骨、左上腕骨、右尺骨の一部が遺存している。左肩甲骨は関節窩付近が遺存するのみである。左上腕骨は近位端付近と遠位端付近が遺存しており、骨体部はほとんど遺存していない。右尺骨は近位端付近が遺存している。

下肢骨は、右寛骨片、左右大腿骨、左右脛骨、右腓骨、左距骨の一部が遺存している。右寛骨は寛骨臼付近が遺存している。左右大腿骨は骨体部が遺存しており、骨端は遺存していない。左右脛骨は骨体部が遺存しており、骨端部は遺存していない。右腓骨は骨体部の一部が残存する。大腿骨の粗線は発達し、脛骨のヒラメ筋線も発達している。

【年齢・性別】

年齢は、歯牙の咬耗度から熟年と推定される。性別は、乳様突起および外後頭隆起が発達していること、大腿骨粗線と脛骨ヒラメ筋線が発達していることから、男性と推定される。

【形質的特徴】

本人骨は、土圧で変形しており、計測は不可能であったが、顕著な歯槽性突顎が認められる。

4、まとめ

以上、出土人骨についての記載・報告を行ってきた。本遺跡出土人骨は保存状態が不良で、個体数も少ないため、計測に耐えうる人骨はほとんどなく、形質的比較を行える個体は得られなかった。しかし、以下の点は明らかにされたと言える。

弥生人骨

・埋葬姿勢は、2号石棺は不明であるが、1号石棺墓は伸展葬の可能性が考えられ、近隣の後迫遺跡(舟橋・田中2002)や草場第二遺跡(高橋編1989)と同じ葬法である。

中世人骨

・埋葬姿勢は、北ないしはそれに近い方角に頭位を保ち、側臥屈葬であることが明らかにされた。また、いずれも隅丸方形の土壙に葬られており、同じ大分県の豊後大野市(旧緒方町)千人塚遺跡(舟橋ほか1999)や山口県下関市吉母浜中世墓(中橋・永井1985)と同じ葬法であった。

・4号中世墓出土人骨には歯槽性突顎が認められた。中世人の特徴とされるこの形質は、前掲の吉母浜中世墓や緒方町中世墓、そして大分県竹田市(旧久住町)中原遺跡（田中ほか2002）でも報告されている。日田地域における中世人にも見られたということは、関東だけでなく全国的に歯槽性突顎の形質が広がっていたという池田氏の説(池田1982)を支持するものである。

・1・2・4号中世墓には、近隣の宮ノ原中世墓(土居・友岡1989)や九重町釘野千軒中世墓(狭川編2004)、竹田市(旧久住町)中原中世墓(宮内編2002)、花立近世墓(櫟浦編2000)と同様に、念珠が副葬されていた。

最後に、本報告に当たり、日田市教育委員会各位にはご便宜を賜り、かつご迷惑をおかけした。深謝したい。また、九州大学大学院比較社会文化研究院石川健氏には人骨取り上げの際、多くのご助力を頂いた。あわせて感謝したい。

参考文献

池田次郎『日本人の起源』(講談社現代新書; 668): 東京: 講談社　1982

狭川真一編『中世墓資料集成―九州・沖縄編―』奈良: 中世墓資料集成研究会　2004

高橋徹編『草場第二遺跡』(九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書1): 大分: 大分県教育委員会　1989

田中良之・舟橋京子・石川健「5、中原遺跡出土の人骨について」『小城原遺跡・中原遺跡』久住: 久住町教育委員会・大分県教育委員会 2002

土居和幸・友岡信彦「日田市朝日宮ノ原遺跡の土壙墓」『おおいた考古』2: 別府: 大分県考古学会　1989

櫟浦幸徳編『市第Ⅳ遺跡・トグウ遺跡・花立遺跡』久住: 久住町教育委員会　2000

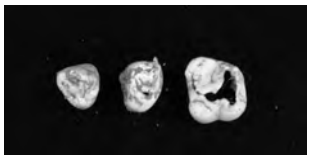
栃原博「日本人歯牙の咬耗に関する研究」『熊本醫學會雜誌』31, 補冊4. 熊本: 熊本醫學會事務所　1957

中橋孝博・永井昌文「Ⅵ人骨」『吉母浜遺跡』下関: 下関市教育委員会　1985

舟橋京子・井村公洋・金宰賢・田中良之「第5章 千人塚遺跡出土人骨について」『千人塚遺跡』緒方: 緒方町教育委員会　1999

舟橋京子・田中良之「後迫遺跡出土人骨について」『後迫遺跡』(日田市埋蔵文化財調査報告書第35集): 日田: 日田市教育委員会　2002

宮内克己編『小城原遺跡・中原遺跡』久住: 久住町教育委員会・大分県教育委員会　2002



２号石棺墓歯牙

２号中世墓長管骨

１号中世墓歯牙

３号中世墓下肢骨

４号中世墓頭蓋骨（側面観）

４号中世墓大腿骨

Ⅳ　まとめ

今回の調査では、竪穴住居３軒、石棺墓３基、木棺墓１基、土壙墓3基、中世墓4基が確認された。以下各遺構の時期について検討してみる。

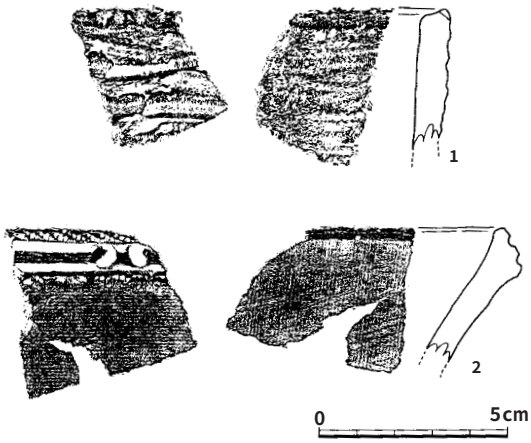
まず竪穴住居について、１号住居は隅丸長方形の平面プランを呈し、遺構の中央には炉跡も確認された。この住居内の柱穴や炉跡からは「く」の字状口縁や脚付甕などの土器が出土し、住居の形態と合わせて判断すると弥生時代後期前半頃の時期と推測される。２号および３号住居は時期を示す明確な出土遺物がないものの、状況から１号とほぼ同時期と考えられる。

次に石棺墓については、いずれも棺材として安山岩の板石が使用されていた。2号石棺墓の中からは土器片が出土しており、特徴から古くとも弥生時代後期前半以降の時期と考えられる。

また木棺墓・土壙墓についても、いずれも時期を示す遺物が出土していないが、主軸方向の類似性から石棺墓とほぼ同時期と思われる。

中世墓4基は灰褐色～黒褐色の明確な埋土、長さ約1.2～1.5mの隅丸長方形の墓坑、火葬を行わない頭北面西の側臥屈葬という共通点を持ち、それぞれがほぼ等間隔につくられていることから、比較的短期間のうちに次々と埋葬が行われたことを想像させる。これらの墓の中からは人骨とともにガラス製の念珠が出土した。日田市内の念珠副葬例としては、唯一朝日宮ノ原遺跡4号墓例が挙げられ、43顆の水晶製念珠（径・厚さ0.5～0.7cm）とともに青磁碗や土師器小皿なども出土しており、それらの遺物から12世紀後半～13世紀前半代とされている。(注1) 本遺跡の念珠は径0.45～0.7cm、厚さ0.25～0.6cmとそれよりやや小振りであり、材質も異なるため朝日宮ノ原例と単純に比較できないが、仏教思想が明らかに墓の中の遺物に反映されていることから、古くとも中世以降の遺構と考えられる。詳細な時期や念珠については今後発掘調査による資料の増加をみて検討したい。

また調査区からは右図に示す縄文土器が出土しており、弥生時代以前にも本遺跡または周囲で生活が営まれていた可能性を指摘しておきたい。



第11図　調査区出土縄文土器実測図（1/2）

（注1）土居和幸・友岡信彦「朝日宮ノ原遺跡の土壙墓」『おおいた考古』2　大分県考古学会　1989

－追記－

平成18年1月22日、平成14年度の埋蔵文化財係長を務められた田中伸幸氏が永眠された。１年3ヶ月もの闘病生活を余儀なくされたが病魔には勝てず、享年47才という若さであった。見た目に違わず中身も大きな方で、担当者が発掘調査現場や報告書作成で疲れているときには必ず優しい言葉で励まし、また冗談で笑いを誘ってくださる、尊敬すべき係長であった。生前のご指導に感謝申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

合掌

第１表　出土土器観察表

挿図番号	遺構名	種別	器種	法量				調整		胎土	焼成	色調		備考
				口径	胴部径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第4図-1	1号竪穴住居	弥生土器	甕	(20.2)	-	-	(18.4)	ハケ	ナデ	ABC	良	淡茶褐色	淡茶褐色	2と同一個体の可能性あり
第4図-2	1号竪穴住居	弥生土器	甕	(20.4)	-	-	(14.1)	ハケ	ナデ	ABC	良	淡茶褐色	淡茶褐色	1と同一個体の可能性あり
第4図-3	1号竪穴住居	弥生土器	甕	-	-	-	(3.3)	ナデ	ナデ	ABC	良	淡灰褐色	淡灰褐色	
第4図-4	1号竪穴住居	弥生土器	甕	-	-	-	(2.5)	ナデ	ナデ	ABC	良	暗灰褐色	暗灰褐色	
第4図-5	1号竪穴住居	弥生土器	脚付甕	-	-	-	(2.5)	不明	不明	ABC	良	淡褐色	淡褐色	
第4図-6	1号竪穴住居	弥生土器	小壺	(11.6)	-	-	(3.4)	ハケ	ナデ	ABC	良	暗褐色	暗褐色	
第4図-7	1号竪穴住居	弥生土器	壺	-	(10.2)	(5.7)	(6.6)	ナデ	工具痕	BCG	良	淡褐色	淡褐色	手捏ね土器
第6図-1	2号石棺墓	弥生土器	甕	-	-	-	(2.5)	ナデ	ナデ	ABC	良	淡茶灰色	淡茶灰色	
第8図-1	2号土壙墓	弥生土器	甕	-	-	-	(2.5)	ナデ	ナデ	ABC	良	暗茶褐色	暗茶褐色	
第11図-1	1号竪穴住居	縄文土器	深鉢	-	-	-	(3.4)	二枚貝条痕→粗いナデ	二枚貝条痕→粗いナデ	BCEG	良	薄黒褐色	淡黒褐色	口唇部上面は丁寧なナデにより平滑化。口唇外面端部には二枚貝(フネガイ科と思われる)の放射肋の押圧によるとみられる刻目文あり。
第11図-2	カクラン	縄文土器	浅鉢	-	-	-	(3.5)	縄文→沈線→ミガキ	ミガキ	ACDE	良	淡褐色	黄褐色	

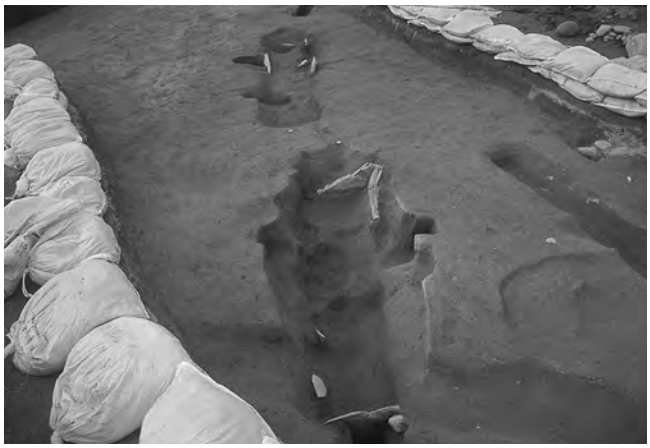
第２表　出土念珠観察表

挿図番号	遺構名	№	材質	最大径	最大厚	穿孔径	重さ	色調	備考
第9図-1	1号中世墓	1	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第9図-2	1号中世墓	2	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第9図-3	1号中世墓	3	ガラス	0.45	0.5	0.1	0.2	白色	
第9図-4	1号中世墓	4	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第9図-5	1号中世墓	5	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第9図-6	1号中世墓	6	ガラス	0.5	0.4	0.1	0.2	白色	
第9図-7	1号中世墓	7	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第9図-8	1号中世墓	8	ガラス	0.45	0.4	0.1	0.2	白色	
第9図-9	1号中世墓	9	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第9図-10	1号中世墓	10	ガラス	0.45	0.4	0.1	0.2	白色	
第9図-11	1号中世墓	11	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第9図-12	1号中世墓	12	ガラス	0.45	0.45	0.1	0.1	白色	
第9図-13	1号中世墓	13	ガラス	0.45	0.35	0.1	0.1	白色	
第9図-14	1号中世墓	14	ガラス	0.5	0.3	0.1	0.2	白色	
第9図-15	1号中世墓	15	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第9図-16	1号中世墓	16	ガラス	0.5	0.4	0.1	0.2	白色	
第9図-17	1号中世墓	17	ガラス	0.55	0.35	0.1	0.2	白色	
第9図-18	1号中世墓	18	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.1	白色	
第9図-19	1号中世墓	19	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.1	白色	
第9図-20	1号中世墓	20	ガラス	0.5	0.45	0.1	0.2	白色	
第9図-21	1号中世墓	21	ガラス	0.5	0.4	0.1	0.2	白色	
第9図-22	1号中世墓	22	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第9図-23	1号中世墓	23	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第9図-24	1号中世墓	24	ガラス	0.45	0.35	0.1	0.2	白色	
第9図-25	1号中世墓	25	ガラス	0.45	0.35	0.1	0.2	白色	
第9図-26	1号中世墓	26	ガラス	0.55	0.3	0.15	0.2	白色	
第9図-27	1号中世墓	27	ガラス	0.5	0.3	0.1	0.2	白色	
第9図-28	1号中世墓	28	ガラス	0.5	0.4	0.1	0.2	白色	
第9図-29	1号中世墓	一括	ガラス	0.45	0.4	0.1	0.1	白色	
第9図-30	1号中世墓	一括1	ガラス	0.5	0.3	0.1	0.1	白色	
第9図-31	1号中世墓	一括2	ガラス	0.5	0.3	0.1	0.2	白色	
第9図-32	1号中世墓	一括3	ガラス	0.5	0.4	0.15	0.2	白色	
第10図-1	1号中世墓	一括4	ガラス	0.45	0.35	0.1	0.1	白色	
第10図-2	1号中世墓	一括5	ガラス	0.5	0.25	0.1	0.1	白色	
第10図-3	1号中世墓	一括6	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第10図-4	1号中世墓	一括7	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.1	白色	
第10図-5	1号中世墓	一括8	ガラス	0.5	0.35	0.15	0.2	白色	
第10図-6	1号中世墓	一括9	ガラス	0.5	0.4	0.15	0.2	白色	
第10図-7	1号中世墓	一括10	ガラス	0.5	0.4	0.1	0.2	白色	
第10図-8	1号中世墓	一括11	ガラス	0.5	0.3	0.15	0.2	白色	
第10図-9	1号中世墓	一括12	ガラス	0.5	0.3	0.15	0.2	白色	
第10図-10	1号中世墓	一括13	ガラス	0.45	0.35	0.1	0.2	白色	
第10図-11	1号中世墓	一括14	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第10図-12	1号中世墓	一括15	ガラス	0.5	0.3	0.15	0.2	白色	
第10図-13	1号中世墓	一括16	ガラス	0.5	0.35	0.15	0.2	白色	
第10図-14	1号中世墓	一括17	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第10図-15	1号中世墓	一括18	ガラス	0.45	0.3	0.15	0.1	白色	
第10図-16	1号中世墓	一括19	ガラス	0.5	0.35	0.15	0.2	白色	一部欠損か
第10図-17	1号中世墓	一括20	ガラス	0.45	0.35	0.1	0.2	白色	
第10図-18	1号中世墓	一括21	ガラス	0.45	0.6	0.1	0.2	白色	
第10図-19	1号中世墓	一括22	ガラス	0.5	0.35	0.15	0.2	白色	
第10図-20	1号中世墓	一括23	ガラス	0.5	0.3	0.1	0.1	白色	
第10図-21	1号中世墓	一括24	ガラス	0.45	0.4	0.1	0.2	白色	
第10図-22	1号中世墓	一括25	ガラス	0.5	0.3	0.1	0.1	白色	一部欠損
第10図-23	1号中世墓	一括26	ガラス	0.45	0.35	0.15	0.2	白色	
第10図-24	1号中世墓	一括27	ガラス	0.45	0.4	0.15	0.1	白色	
第10図-25	1号中世墓	一括28	ガラス	0.5	0.45	0.1	0.2	白色	
第10図-26	1号中世墓	一括29	ガラス	0.45	0.35	0.1	0.2	白色	
第10図-27	1号中世墓	一括30	ガラス	0.45	0.35	0.1	0.1	白色	
第10図-28	1号中世墓	一括31	ガラス	0.45	0.4	0.15	0.2	白色	
第10図-29	1号中世墓	一括32	ガラス	0.45	0.35	0.1	0.1	白色	一部欠損
第10図-30	1号中世墓	一括33	ガラス	0.5	0.4	0.1	0.2	白色	
第10図-31	1号中世墓	一括34	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第10図-32	1号中世墓	一括35	ガラス	0.5	0.45	0.1	0.2	白色	
第10図-33	1号中世墓	一括36	ガラス	0.45	0.35	0.1	0.1	白色	
第10図-34	1号中世墓	一括37	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第10図-35	1号中世墓	一括38	ガラス	0.45	0.35	0.1	0.2	白色	
第10図-36	1号中世墓	一括39	ガラス	0.45	0.35	0.1	0.2	白色	
第10図-37	1号中世墓	一括40	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第10図-38	1号中世墓	一括41	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第10図-39	1号中世墓	一括42	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第10図-40	1号中世墓	一括43	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第10図-41	1号中世墓	一括44	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第10図-42	1号中世墓	一括45	ガラス	0.5	0.35	0.15	0.2	白色	
第10図-43	1号中世墓	一括46	ガラス	0.5	0.35	0.15	0.2	白色	
第10図-44	1号中世墓	一括47	ガラス	0.5	0.4	0.15	0.2	白色	
第10図-45	1号中世墓	一括48	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第10図-46	1号中世墓	一括49	ガラス	0.5	0.3	0.1	0.2	白色	
第10図-47	1号中世墓	一括50	ガラス	0.5	0.3	0.15	0.2	白色	
第10図-48	1号中世墓	一括51	ガラス	0.5	0.4	0.1	0.2	白色	一部欠損か
第10図-49	1号中世墓	一括52	ガラス	0.5	0.35	0.1	0.2	白色	
第10図-50	1号中世墓	一括53	ガラス	0.45	0.35	0.15	0.1	白色	
第10図-51	1号中世墓	一括54	ガラス	0.45	0.4	0.1	0.1	白色	
第10図-52	2号中世墓	1	ガラス	0.55	0.35	0.25	0.1	白色	
第10図-53	2号中世墓	2	ガラス	0.5	0.35	0.2	0.1	白色	
第10図-54	2号中世墓	3	ガラス	0.65	0.45	0.2	0.3	白色	
第10図-55	2号中世墓	4	ガラス	0.65	0.4	0.15	0.2	白色	
第10図-56	2号中世墓	5	ガラス	0.6	0.5	0.2	0.3	白色	
第10図-57	2号中世墓	6	ガラス	0.6	0.5	0.3	0.3	白色	
第10図-58	2号中世墓	7	ガラス	0.55	0.25	0.25	0.1	白色	
第10図-59	2号中世墓	8	ガラス	0.65	0.5	0.2	0.3	白色	
第10図-60	2号中世墓	9	ガラス	0.55	0.45	0.2	0.2	白色	
第10図-61	2号中世墓	10	ガラス	0.6	0.4	0.3	0.2	白色	
第10図-62	2号中世墓	11	ガラス	0.6	0.4	0.25	0.2	白色	
第10図-63	2号中世墓	12	ガラス	0.65	0.45	0.2	0.3	白色	
第10図-64	2号中世墓	13	ガラス	0.65	0.4	0.1	0.2	白色	
第10図-65	2号中世墓	14	ガラス	0.6	0.4	0.3	0.2	白色	
第10図-66	2号中世墓	15	ガラス	0.65	0.4	0.2	0.2	白色	
第10図-67	2号中世墓	16	ガラス	0.65	0.35	0.2	0.2	白色	
第10図-68	2号中世墓	17	ガラス	0.65	0.4	0.2	0.2	白色	
第10図-69	2号中世墓	18	ガラス	0.4	0.3	0.2	0.1以下	白色	
第10図-70	2号中世墓	19	ガラス	0.6	0.5	0.15	0.2	白色	
第10図-71	2号中世墓	20	ガラス	0.6	0.4	0.2	0.2	白色	
第10図-72	2号中世墓	21	ガラス	0.7	0.5	0.2	0.3	白色	
第10図-73	2号中世墓	22	ガラス	0.6	0.5	0.15	0.2	白色	
第10図-74	2号中世墓	23	ガラス	0.65	0.5	0.2	0.3	白色	
第10図-75	2号中世墓	24	ガラス	0.6	0.4	0.2	0.2	白色	
第10図-76	2号中世墓	25	ガラス	0.65	0.35	0.2	0.2	白色	
第10図-77	2号中世墓	26	ガラス	0.65	0.4	0.2	0.1	白色	
第10図-78	2号中世墓	27	ガラス	0.6	0.4	0.2	0.2	白色	
第10図-79	2号中世墓	28	ガラス	0.6	0.45	0.15	0.2	白色	
第10図-80	2号中世墓	29	ガラス	0.65	0.45	0.2	0.3	白色	
第10図-81	2号中世墓	一括	ガラス	0.7	0.5	0.15	0.3	白色	
第10図-82	2号中世墓	一括	ガラス	0.65	0.4	0.2	0.2	白色	
第10図-83	2号中世墓	一括1	ガラス	0.65	0.4	0.2	0.3	白色	
第10図-84	2号中世墓	一括2	ガラス	0.7	0.5	0.2	0.3	白色	
第10図-85	2号中世墓	一括3	ガラス	0.6	0.5	0.2	0.3	白色	
第10図-86	2号中世墓	一括4	ガラス	0.7	0.45	0.2	0.3	白色	
第10図-87	2号中世墓	一括5	ガラス	0.6	0.5	0.2	0.3	白色	
第10図-88	2号中世墓	一括6	ガラス	0.6	0.5	0.25	0.3	白色	
第10図-89	2号中世墓	一括7	ガラス	0.6	0.4	0.2	0.3	白色	
第10図-90	3号中世墓	一括1	ガラス	0.65	0.45	0.2	0.3	白色	
第10図-91	3号中世墓	一括2	ガラス	0.6	0.5	0.2	0.3	白色	
第10図-92	4号中世墓	1	ガラス	0.7	0.5	0.15	0.4	白色	
第10図-93	4号中世墓	2	ガラス	0.6	0.45	0.2	0.3	白色	
第10図-94	4号中世墓	3	ガラス	0.6	0.5	0.15	0.3	白色	
第10図-95	4号中世墓	4	ガラス	0.6	0.5	0.15	0.3	白色	
第10図-96	4号中世墓	5	ガラス	0.6	0.45	0.15	0.3	白色	
第10図-97	4号中世墓	6	ガラス	0.6	0.45	0.15	0.2	白色	
第10図-98	4号中世墓	7	ガラス	0.6	0.5	0.25	0.3	白色	
第10図-99	4号中世墓	8	ガラス	0.6	0.55	0.2	0.3	白色	
第10図-100	4号中世墓	9	ガラス	0.7	0.45	0.2	0.3	白色	
第10図-101	4号中世墓	10	ガラス	0.6	0.5	0.2	0.3	白色	
第10図-102	4号中世墓	11	ガラス	0.6	0.45	0.15	0.3	白色	
第10図-103	4号中世墓	12	ガラス	0.6	0.5	0.25	0.3	白色	
第10図-104	4号中世墓	13	ガラス	0.6	0.6	0.15	0.4	白色	
第10図-105	4号中世墓	一括1	ガラス	0.6	0.55	0.15	0.4	白色	
第10図-106	4号中世墓	一括2	ガラス	0.65	0.45	0.2	0.3	白色	
第10図-107	4号中世墓	一括3	ガラス	0.65	0.4	0.25	0.2	白色	
第10図-108	4号中世墓	一括4	ガラス	0.6	0.45	0.2	0.2	白色	
第10図-109	4号中世墓	一括廃	ガラス	0.6	0.45	0.15	0.3	白色	

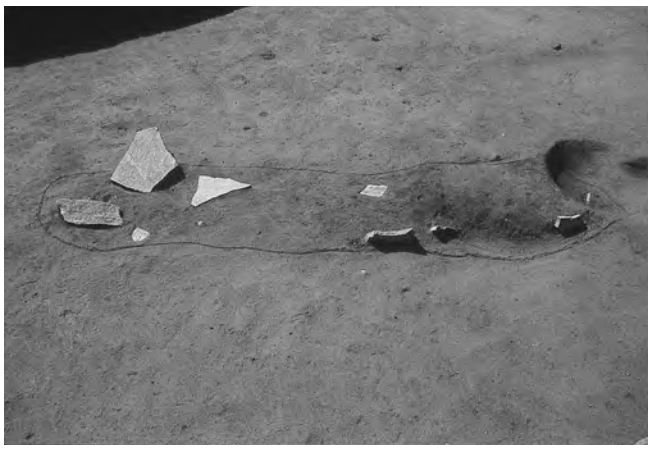
１号竪穴住居完掘状況

２号竪穴住居完掘状況

３号竪穴住居完掘状況



１号（奥）・２号（手前）石棺墓



１号石棺墓検出状況

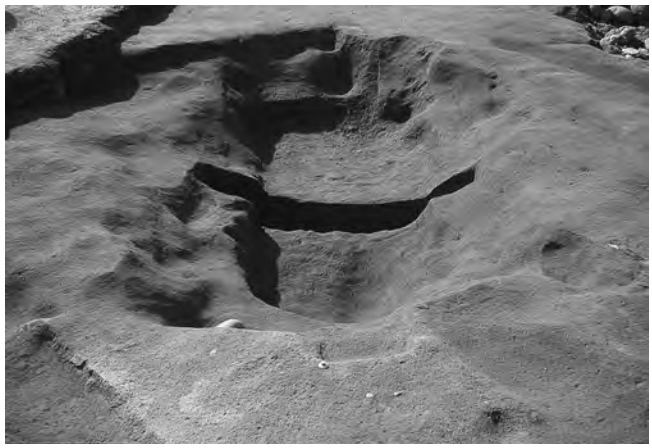
１号石棺墓人骨出土状況

２号石棺墓検出状況

２号石棺墓人骨出土状況

写真図版２

３号石棺墓検出状況



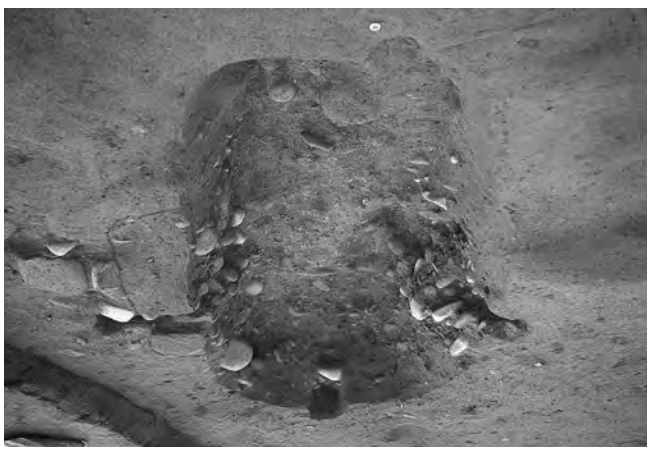
３号石棺墓完掘状況

１号木棺墓検出状況

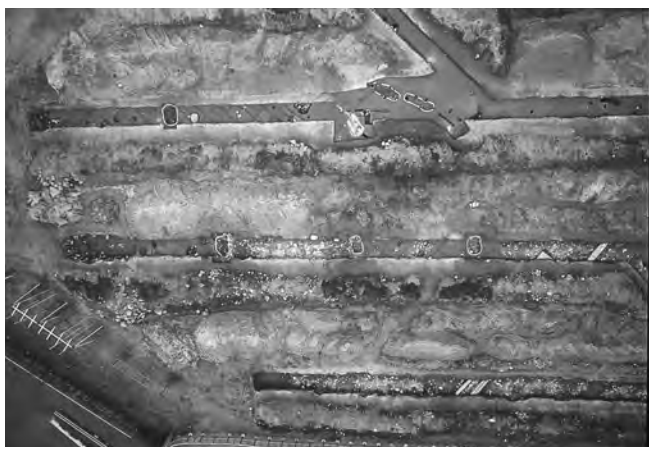
１号木棺墓完掘状況

石棺墓・木棺墓・土壙墓群（真上から）

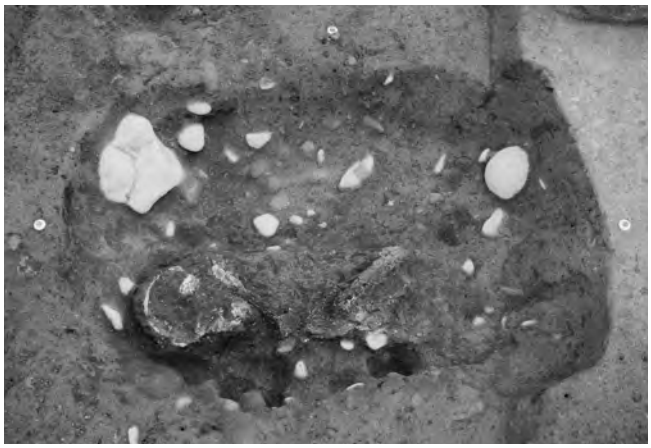
１号土壙墓完掘状況



２・３号土壙墓掘下げ状況



１～４号中世墓（真上から）



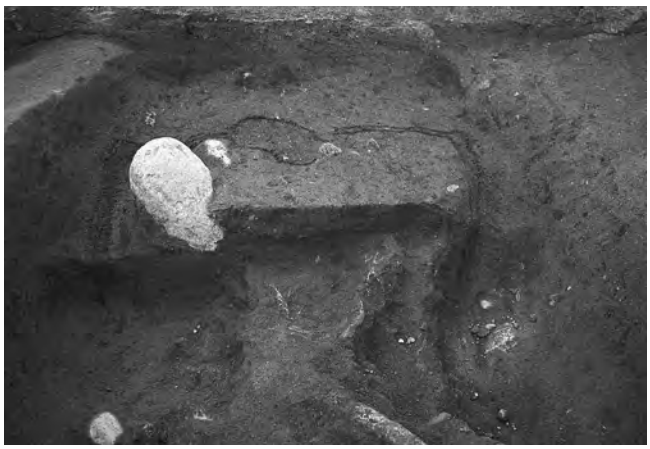
１号中世墓人骨出土状況

１号中世墓念珠出土状況

２号中世墓人骨出土状況

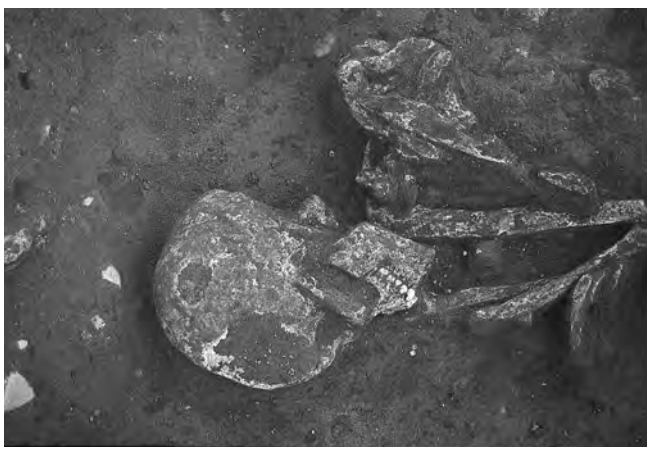
２号中世墓念珠出土状況

３号中世墓人骨出土状況



４号中世墓木棺痕跡検出状況

４号中世墓人骨出土状況



４号中世墓念珠出土状況

写真図版４

4-1

4-2

4-3

4-4

4-5

4-6

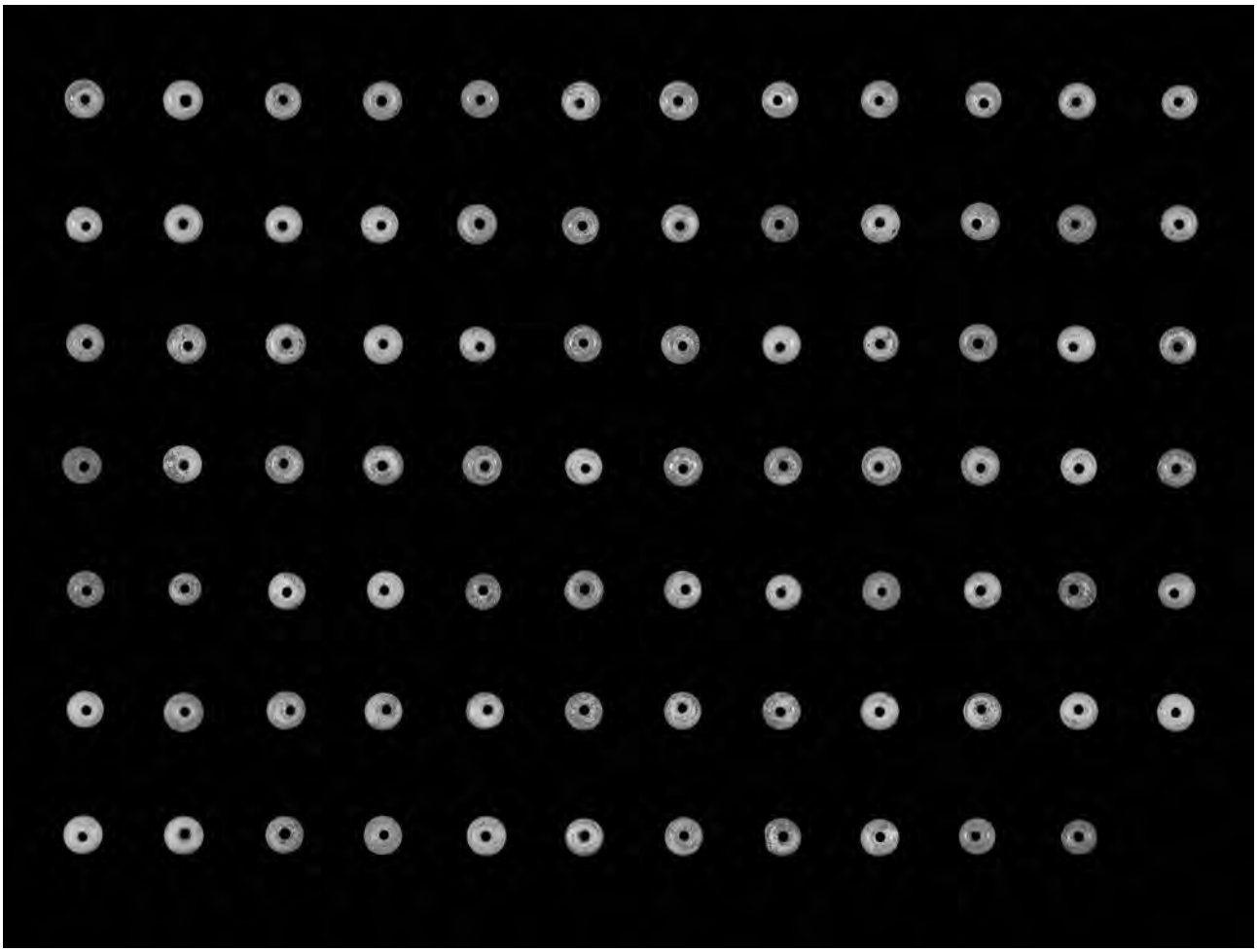
4-7

6-1

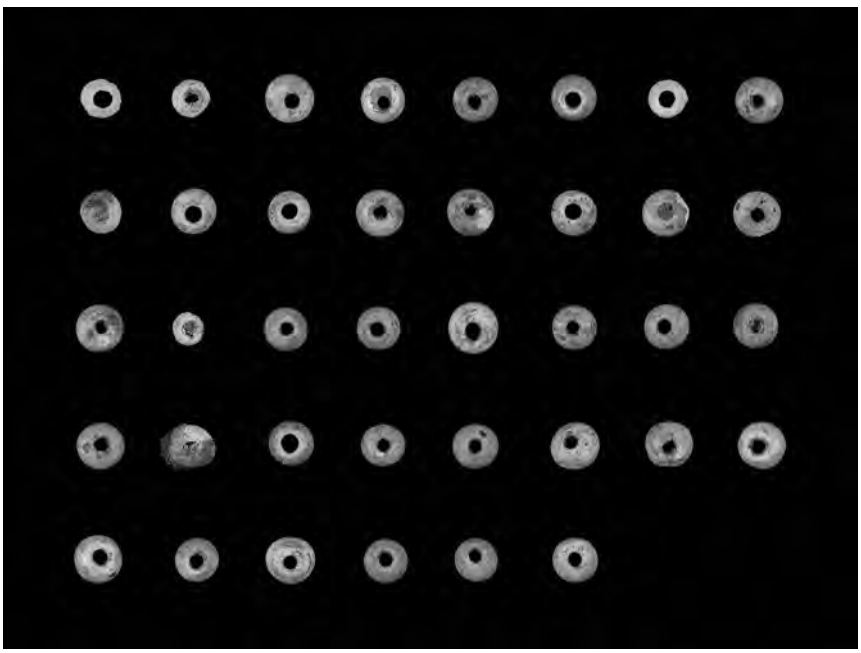
8-1

11-1

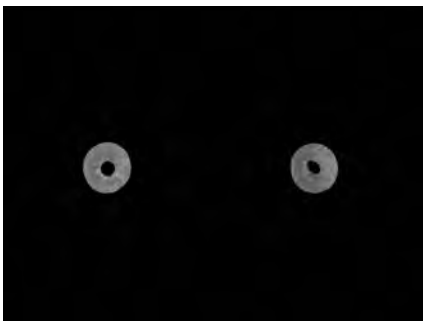
11-2



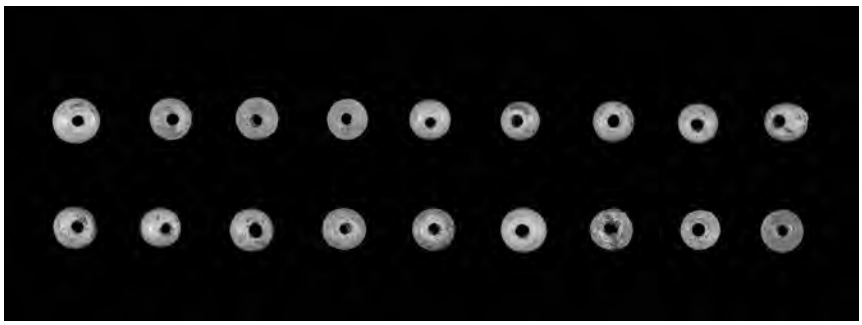
１号中世墓出土念珠



２号中世墓出土念珠



３号中世墓出土念珠



４号中世墓出土念珠

報　告　書　抄　録

ふりがな	なかがわらいせき
書名	中川原遺跡
副書名	-
巻次	-
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	72
編著者名	行時　桂子
編集機関	日田市教育委員会文化財保護課
所在地	〒877-0077　日田市南友田町516-1
発行機関	日田市教育委員会
所在地	〒877-8601　日田市田島2-6-1
発行年月日	2006年3月31日（平成18年3月31日）

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
中川原遺跡	大分県日田市大山町西大山3494-1	44204-6	657001	33°15′27″	130°57′54″	20051003～20051209	300㎡	グラウンド改修

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中川原遺跡	集落跡 墓地	弥生時代 中世	竪穴住居3軒、石棺墓3基、木棺墓1基、土壙墓3基、中世墓4基	弥生土器、人骨2体 念珠141点 人骨4体	

中川原遺跡
2006年3月31日

編　集　日田市教育委員会 文化財保護課
877-0077　大分県日田市南友田町516-1
発　行　日田市教育委員会
877-8601　大分県日田市田島2-6-1
印　刷　有限会社　朝日堂印刷
877-0044　大分県日田市隈2-2-31